

# ロゼ

文化情報誌 ロゼ  
ROSE THEATRE  
ART INFORMATION OF FUJI CITY  
CULTURE MAGAZINE ROSE

VOL. 44 2003



10th Anniversary



## ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 2003年7月発行(第44号)  
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0953 富士市藤原町1750番地 TEL(0545)60-2510(代)  
企画・編集・製作 (財)富士市文化振興財団事業企画広報係 株式会社アドシップ

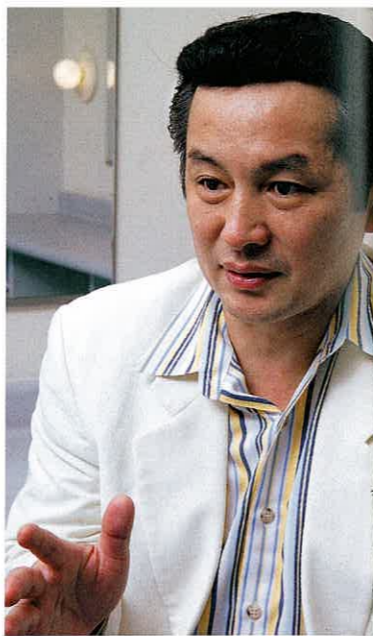
ロゼ・スペシャルインタビュー

来る九月二十七日(土)と二十八日(日)の両日、ロゼシアター・中ホールにて公演の、ロゼシアター開館十周年記念ミュージカル「HAND IN HAND」の心と心の回想録を、市民のみならず共に演ずる、劇団シアタージャパンの「夏タ介」さん、市民キャストオーディションの審査員として、ロゼシアターにお越しいただき、お話を伺いました。



# 夏タ介

なつゆうすけ



ありまして、それですと役作りを極真会館でやっただけです。大変な思いをしました。それがよかったですね。作品的には成功しましたから。

「愛と誠」の主人公「太賀誠」というんです。この誠が、実は劇団シアタージャパンの旗揚げ公演「ブループレイトスベシヤル」の岡田誠へつながっていくんです。僕の中では当時不良だった誠が目覚めて、少年院へ行って、医者になったんじゃないかと勝手に思っているんです。それで、できればそっちにならなりたいというところで、「誠」とし、実際存在する岡田先生にお世話になったというので、「岡田誠」としていただいたんです。

そして「特捜最前線」でしょうか。こちらは七年間やらせていただきましたね。「特捜」は大滝秀治さんと二谷英明さんという大先輩に随分いろいろと指導していただきました。

実は大阪で「グランプリズ」という和田アキ子さんのバックバンドでキーボードをやっていたんですけど、本当はそのままデビューする予定だったんです。でもメンバーが結構高齢で、芸能界なんて入りたくないということでホリプロから和田アキ子さんだけデビューしたんです。そういうつながりがあった、たまたまオックスというバンドのメンバーがいて、急遽、若しキーボード奏者がいないかということになった時に、和田アキ子さんが「ああ関西に若いのがいるから」と僕を。それが芸能界に入ったきっかけですね。

グループサウンズの全盛期ですね。ええ。でも今は劇団と一緒に歩んでいきますので、映像もあまりやっていません。でも、これから年内には映像にほとんど出たいこと、思っているんです。劇団員は映像経験が少ないうえから、僕をきっかけにして、劇団員をどんどん映像の世界に入れていこうと思っています。

これまで、テレビや映画で映像の世界に多数出演されていると思いますけれども一番印象に残っている作品は？  
いろいろありますけれども、やはり「愛と誠」でしょうか。監督から、目がやさしすぎるから、もっととつく、鋭く、という指示が

しい作品が生まれまして、大変思い出深い作品だと思います。

「ハンドインハンド」は今回、初演、再演に続いて再々演ということですが、今回特別に地元キャストがオーディションで出演させていただけるとのこと、今回の「ハンドインハンド」の見所について聞かせてください。一番の見所は初めてお出になる富士市の皆さんだと思います。かなり迫力があると思います。

僕自身、一番の楽しみはアマチュアの皆さんと共演出来るということです。逆に盗めることがあったら、はい、盗んじやおうと思つて。先ほどこちらに来るときに三浦さんと話したんですけど、プロとアマチュアってどこにどう差があるんだろう？って。プロであつてもよく勘違いしているプロがいますから。富士市はものすごくレベルが高いと聞いていますので、これは一番の見所です、僕自身楽しみをしています。

それに、人数も二倍近くになるわけですよ。皆さんと一緒に新しい「ハンドインハンド」を。歌も見所になりますね。娘さんが宝塚へ入られて同じ俳優の道を選んだことについては？  
自分で選んだ道ですからね。おかげ様で音楽学校を卒業させていただいて、宙組に配属になりました。好きなことですから、楽しみながら、ね。

娘さんの舞台はご覧になりましたか？  
ええ、自分で出るよりも緊張します。(笑)それに、よく鍛えられていると思います。まだまだうちの劇団は甘いと思いますね。やはり挨拶とか、基本中の基本を徹底的に指導していただけるのはありがたいことです。僕たちも厳しくするところは厳しくしていかないと。  
本当に舞台で言うのは生身ですからね。一人がちよつと足ひっぱっちゃうと全体に影

響する。チームワークは大切ですね。

今回、劇団員も、みなさんも、素人といつても、ある意味では僕も舞台浅いですが素人です。お金をいただいている以上はプロ意識を徹底して、いい作品、今までのない「ハンドインハンド」を作りましょう。二度と、五十人以上でやる「ハンドインハンド」はないですからね。ダンスナンバーの「バリバリ伝説」で、みんな出てきたら、どうなっちゃうんだろう？ってね。楽しみです。

皆さんの新しいエネルギー、はい、いただきます。よろしくお願いします。  
最後に夏さんご自身と劇団シアタージャパンの今後の活動について教えてください。  
劇団が来年から養成所をはじめます。そこで入場所を探している最中なんです。本公演は東京芸術劇場で、月十五日から十七日迄です。

僕は来年、芸能生活三十五周年ですから、ショーになるのか、お芝居になるのか、ミュージカルになるのか、まだわかりませんが、何かが形として、三十五周年に相応しいものをやろうと思つています。  
あとはとにかく映像をまたほとんど出たい。時代劇から三時間ものから、とにかく僕が出て行って、一人でも多くの劇団員に、映像の世界を経験させたいと思います。  
お忙しいところ、ありがとうございました。







**丸茂** 能の上演形態は、よく五番立と言われますが、最近はどうでしょうか？  
**津村** 二の儀式として正式に上演する式次第があつて、「神能」から始まつて、戦を題材にした「修羅能」(幽玄な恋の話の「霊物」、人情的なドラマが主題となる「雑物」、そして最後は鬼が出たり蛇が出たりといった活

### 幽霊の世界は難しい？

こちらを向いているように思えてくる。もしすっぽり覆っていたら、いつまでも作り物の仮面のままで終わってしまつて、生きた表情は生まれてこないと思うんです。  
**丸茂** 能面というのは、瞳孔の二つの穴と鼻の二つの穴しか見るところがないのですよね。  
**津村** 直線しか見えませんが、最初は見えるかなんて心配しながら動いていますが、だんだん自分のイメージの中に相手のポジションが出来てきます。そしてそれに向かつて肉体を動かせるようになってきますね。それから、面をつけると言葉がこもりがちになるので、言葉を明確に伝えようと努力しています。そのために、実は能面の裏に布のクッションを作つて入れて、頬骨とおでこの3点で能面を支えていて、面は顔から浮いているんです。唄うときに面が動かないようにもなりますから。



丸茂(左)と津村(右)の対談の様子。

劇的な「鬼畜物」となります。この五種類の能に四種類の狂言が挟まれて上演されるのを五番立と言います。厳密に言うとその前に天下泰平、五穀豊穡の「祈禱の翁」があつて、一番最後に結びの「祝言能」があります。朝八時くらいから初めて、夜まで一日掛けて上演するんです。そういう能のフルコースを能楽協会では一年に一回やっています。現代では能を一番上演するときも、この五番の順序、オーダーに合わせて上演順序を決めます。神能と霊物があれば、神能が先になります。演者が霊物をベテランの先生が演ずるからと言つても、順番が逆になることはありません。  
**丸茂** 今回上演する「赫夜」はそのうちの霊物ということになりますね。  
**津村** そうですね。それから「石橋」は獅子の舞なので五番物になります。それに祝言能でもありますね。だから「赫夜」で「石橋」という順番になります。  
**丸茂** 能曲からみても構成がありますね。  
**津村** 観阿弥・世阿弥以前の能は、現実の

物語性・物まね性が多いから、単式といつか二場面が終わるわけですが、世阿弥があまり出した夢幻能は前場と後場を分けて複式にするんです。前場は現実、後場は夢の世界で、主役は死者や霊魂です。そして、真ん中に間狂言(あいぎょうげん)といわゆる語りが入ります。これが複式夢幻能という形です。これは世阿弥があまり出したんですが、これが能をわかりにくくしたのかもしれませんね。幽霊の世界にしてしまつたんですから。(笑)  
**「赫夜」は「かぐや姫」**  
**丸茂** 竹取物語を能にしたというお話を取った時、五人の貴公子たちが難題を失敗する話は長すぎる困りました。ところが富士市に古くから伝わるかぐや姫伝説があったのです。比奈というところには竹取塚があり、姫名という古名もあつたんです。そこには、白隠禪師の隠居寺があつて、禪師のお墓もあるんです。この地方のかぐや姫伝説では、かぐや姫は国司と結婚して、富士山に帰っていくのです。難題もなく単純なんです。竹取物語の古い形の富士市のかぐや姫伝説をつかつて「赫夜」を作らせて頂きました。演じる側からの見どころは？  
**津村** 今回は間狂言を入れて、富士市のかぐや姫伝説を里人に語らせる演出を考えています。初演の時登場したおじいさんとおばあさんは、今回は狂言方の説明だけで実際に人物としては出しません。むしろ国司と姫との恋愛、そして別離の悲しさ、富士山の湖の中に深く沈んでいく冷たさ、それをみて国司が悲しみ、自らも身を投げる、といった所がポイントです。  
**丸茂** 前場の主人公はワキの白隠禪師、そしていわくありげな村の女に出会うところ

**津村 禮次郎**  
つむら れいじろう

観世流シテ方。1960年女流能楽師の開祖・津村紀三子に師事し、同年初舞台。1963年初シテ、能「花月」。1964年一橋大学経済学部卒業。5年後、同社会学部卒業。1967年師家大内正美、津村紀三子の養子となる。1974年津村紀三子死去により緑泉会会長となる。1979年第一回小金井薪能を都立小金井公園にて小金井市共催で開催、以後毎年継続。1994年ロゼシアターにて創作能「赫夜/カグヤ」、1998年新作能「オセロー」を上演。1996年より二松学舎大学文学部講師となる。重要無形文化財総合指定者。

更に詳しく知りたい方はぜひ、ご覧下さい。

**津村禮次郎 著 小学館 発行 1,600円(税別)**

**公演情報**  
9月17日(水)  
●開場/18:00  
●開演/18:30  
●会場/ロゼシアター(大ホール)

●入場料(全席指定)  
S席:6,000円(完売)  
A席:4,000円  
B席:2,000円  
(学生:1,000円)



平成6年9月公演より...ロゼシアター中ホール

# 津村禮次郎

# 丸茂湛祥能を語る。

ロゼシアターでは、開館10周年記念事業として、『創作能「赫夜」と狂言の夕べ』を開催します。創作能「赫夜」は富士市のかぐや姫伝説を題材とした富士市オリジナルの能で、平成六年の初演に続いての再演となります。そこで、作者丸茂湛祥氏と観世流シテ方津村禮次郎氏に「能」の魅力、創作能「赫夜」の見どころをお話いただきました。

能力とか芸能等色々出てきますが、「芸能」が一番「能」に相応しいのではないかと思います。今風に言えばエンターテインメント、お客様を喜ばせるもの。元来、猿楽というのが能の前身です。これが猿楽の能です。古代にはじまり中世に盛んになり、近世の始めに完成された日本の代表的芸能です。能は面をつけて舞う大変スケールの大きい芸能です。  
**丸茂** 能には外国から入ってきた物がたくさん取り入れられています。猿楽自体も、軽業や奇術、滑稽な物まねなど、娯楽性の強い芸能「散楽(さんかく)」がもう一つの語源で、唐の時代に伝来したと言われています。それから、仏教の声明(しょうみょう)という音楽もそうですし、鼓とか笛もそうです。  
**津村** そうですね。長い歴史の中で日本の文化の集大成された二つの芸能として能があると思います。ここまで続いてきたというのが大変大事だと思うんです。それぞれの時代に支えていく社会や人々が



居た訳で、世阿弥の頃は般大衆が、武家社会に入つて大名や武家が支えている。経済的に豊かな人々や社会が支えている。現代は能に興味のある皆さんが観て下さっている。これが続いてくればと思います。  
**能面は浮いているんです。**  
**丸茂** 狂言はほとんど会話から成り立つ。能の方が音楽性に富んでいる。海外で上演して、どちらをより理解してもらえますか？  
**津村** 昨年スペインに行った時に聞いた話ですけど、狂言はたしかに仕種は面白いし笑える。だけど人間のドラマとして観た時

には、能の方が伝わりやすいと言っています。それはやっぱり音楽と所作、舞から感じとられるものが世界共通だからでしょう。狂言は動作の面白みは伝わっても、言葉が解らないと細かいニュアンスは伝わりにくいんですね。  
**丸茂** 能において最も特徴的なのは面を使うところだと思いますが、面の効用はどんなところにあるのでしょうか。  
**津村** 能面は基本的に顔よりもサイズが小さくて、顔をすっぽり覆い隠すのではなく、顎や喉仏が露出しているんです。初めは見た目にすごく違和感があるんですが、時間が経つにつれて顔になじみ、口が動き、目が

が前半。後半は、村の女は実はかぐや姫で、国司を捨てて富士山に戻つたお詫びを言いたい思いがある。後場で白隠禪師を仲立ちとして二人が出会い喜びを語りあう。今回の山場は後場で国司とかぐや姫が懐かしく出合い、思いを通わせるところですね。  
**津村** 見ているお客さんを物語の中の二人の世界へ引き込んでいけるよう、これから稽古を積んで、満足いただける舞台にできればと思っております。  
**丸茂** 今日は本当にありがとうございました。  
**津村** ありがとうございます。

**創作能**  
赫夜(かぐや)  
丸茂湛祥:作 津村禮次郎:作能  
かぐや姫:津村禮次郎  
白隠禪師:安田登

**狂言**  
蝸牛(かぎゅう)  
太郎冠者:野村万作  
山伏:野村萬斎  
主:深田博治

**半能**  
石橋(しゃつぎょう) 大獅子  
白獅子:津村禮次郎  
寂照法師:安田登

日本画家・僧侶・元立正大学講師。京都大学文学部哲学科宗教学専攻卒。卒業後、学校教育現場にて教鞭をとる。京都大学在学中に日本画を学び数々の賞を受賞。新興美術院審査員。新興美術院展作品「中空構造」が文部大臣奨励賞を受賞。ほか市民文芸賞、県民文芸賞を受賞。また、地域における芸術活動にも取り組み、地域伝統芸能を創作する傍ら、様々な芸術・文化活動への多大な貢献に対し、富士市教育文化奨励賞を受賞。

財富士市文化振興財団 芸術委員  
**丸茂 湛祥**  
まるも たんじょう

# 2003MAYコンサート

2003年5月25日(日) 14:00開演 小ホール

2003年3月に音楽大学・短大専攻科等を卒業したばかりのフレッシュな新人音楽家による演奏会「MAYコンサート」が、本年も5月25日(日)に開催されました。演奏直後の出演者の皆さんに、感想・今後の抱負等をお話いただきました。



**梶田 真弓(ピアノ)**  
♪E.グリーグ/抒情小曲集作品65より「トロロトハウゲンの婚礼の日」  
緊張しましたが、皆さんにあなたを見守ってもらい気持ちよく演奏することができました。今後も演奏活動を続けたいと思います。



**和田 香織(マリンバ)**  
♪ダリウス・ミヨー/マリンバとヴィブラフォンとオーケストラのための協奏曲  
演奏できる機会に恵まれたことをとても幸せに思いました。これからも、好きな音楽を勉強できることに感謝し、多くのことを学びたいと思います。



**畔高 久美子(声楽)**  
♪中田喜直/ゆく春  
♪ブッチャーニ/オペラ「修道女アンジェリカ」より「母もなく」  
大学卒業後、初めて、しかも地元での演奏会。嬉しさの反面、緊張もそれ以上でした。無事終わった今はホッとしています。今回、両親をはじめ、伴奏者、ロゼ関係者の方々に大変お世話になりました。多くの方々に支えられて今の自分があることを忘れず、今後も演奏活動を続けていきたいと思っています。



**加藤 朋子(フルート)**  
♪ポール・タファネル/アンタテ・パストラールとスケルツェット  
以前からの憧れだったMAYコンサートの舞台に立つことができ、とても感激しました。演奏では緊張のあまり手が震えてしまったのですが、良い経験になりました。また、今回ロゼシアターの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



**逸藤 里絵(オーボエ)**  
♪フランシス・ブーランク/ピアノ、オーボエとバスーンのための三重奏曲  
私は音楽を通じ、音楽の素晴らしさを共感しあえる仲間に出会うことが出来ました。それは、わたしにとってかけがえのない財産となりました。これからも大切にしていきたいと思っています。ありがとうございました。



**嶋津 史(チューバ)**  
♪J.S.バッハ/教会カンタータ147番「心と口と行いと生きざまは」より「主よ、人の望みの喜びよ」  
♪ヘンリー・マンシーニ/子象の行進  
今回は出演させて頂きありがとうございました。私を含め、一緒に出演した3人にとっても良い経験になりました。今後は演奏できる機会が少なくなりますが、今回の経験を基に頑張っていきたいと思っています。



**田島 優子(ヴァイオリン)**  
♪J.S.バッハ/コンチェルトNO.2Edur  
今回、バッハを選曲したことで、私はとても良い勉強をすることができ、また大きく飛躍することができました。音楽の基本ともされるバッハは、譜面を見ると一見簡単そうに見えますが、曲全体が理解できていないと演奏することは難しいと思います。作曲者が曲に込めた思いを「読み取る」ことも大切になってきます。今回はとても気持ちよく演奏することができました。

## ケヴィン・ケナー 公開ピアノレッスン

~未来のショパン国際コンクールを目指して~



五月三十一日、世界のトップクラスのピアニスト、ケヴィン・ケナー氏によるピアノ公開レッスンを開催。富士市のピアノを公開レッスンを目指す二名の学生が最高のテクニックと世界の音楽感を学びました。

●ケヴィン・ケナー  
ピアノを演奏するうえで大切なものが二つあります。ひとつは演奏しようとする曲がどのような曲想であるかを考えること。二つ目にピアノの前に座ったとき楽器としてのピアノの機能を充分活かせる技術力で表現しなければなりません。

●増田 真  
私はまだ知らないテクニックもたくさん教えていただきました。たとえば指を鍵盤から離さず、腕を使ってポジションを移動することなど、とても良い経験になりました。これからもピアノと部活の陸上がんばります。

●上野 洋  
ケナーさんはとても音色を大切にされる方ですね。ひとつのフレーズに捕らわれず、曲全体を感情的に表現することを教えられました。作曲者がひとり一人違うように曲も違った意味をもっている。もっとレッスンをしたいと思いました。ケナーさんはとても偉大なピアニストです。オーラを感じました。これからピアノと指揮を勉強していきます。今日は一生の思い出になりました。



公演レポート

# ロゼゴラスペルクワイア in サウンド of ジョイゴスペルコンサート



▲リハーサルから余裕の笑顔...とても楽しそうです

「もう、楽しすぎる!」終演後、あるクワイアの方に感想をたずねたときの返事です。興奮未だ冷めやらぬ様子で、顔を上げてさながら帰っていきました。多くのクワイアの方が皆同じ気持ちではなかったでしょうか。

この日のため結成された「ロゼゴスペルクワイア」は、サウンドオブジョイのリーダー・淡野保昌氏の指導のもと、3回のワークショップに参加し本番の舞台にのぞみました。自宅からすでにモノトーンの衣裳で集合してくれた方もいたほど気合は充分。初めての舞台上でのリハーサルなのに声もしっかり出てました。そして本番。二部のスタートの3曲とアンコールではサウンドオブジョイの演奏は、カペラ(無伴奏)で見事なハーモニーの醍醐味を、ロゼゴスペルクワイアは、体感とパワーと感動を与えてくれました。体に、そして心に響く、音楽の目に見えない力を感じたコンサートでした。



▲「決めのポーズはこうしよう!」

サウンドオブジョイのメンバーと共に「Oh Happy Day」を熱唱しました。ワークショップの時からクワイアの皆さんの力は良かったのですが、本番はさらにパワーアップして、手を上げながら、体でリズムをとりながら、楽しそうに、気持ちよさそうに歌っていました。そんな気持ちがお客様にも伝わったのでしょうか、元氣になれた、心が洗われたようだった、歌う喜びが伝わって最高に幸せな気分になった等、嬉しいコメントをたくさんいただきました。



▲「Jesus Is The Answer」サウンドオブジョイのブラッキーさんと共演



▲アンコール、こんな素敵な演出で登場しました



▲ソロの役割をつとめてくれた青木さん



▲本番前の最後のレッスン

## 淡野保昌 インタビュー

富士市のひとは熱いですね。3回の練習と本番でみんなのパワーを感じました。また、このホールは音が素晴らしいです。バランスがよいというか歌いやすいホールです。ロゼゴスペルクワイアはこれからも続けていきたいですね。この公演でゴスペルの良さを感じたと思います。全員の呼吸が合ったときは気持ち良かったはずですよ。全国で市民ゴスペルに携わっています。今日は大満足です。(談)



▲感動のフィナーレ♪ Oh Happy Day♪



▲自分の世界に入っています。

2003.4.20

# 掲示板

ロゼシアター開館10周年記念ミュージカル

## HAND in HAND

～心と心の回想録～

劇団シアタージャパンとオーディションで選ばれた市民キャストの共演でおくる、ミュージカル「HAND in HAND」。社会問題であるイジメやドラッグなどをテーマに繰り広げられる様々なドラマ。ステージを盛り上げるバラード・ロックを始めとする様々なミュージカルナンバー。躍動感溢れる最上級のストリートダンス。パワー溢れるミュージカルをお楽しみ下さい。

7月5日のオーディションにて  
市民CAST決定!!

- ・嶋 崇良
- ・横沢 史織
- ・井出 紗織
- ・久松 靖子
- ・西家 貴絵
- ・佐野 恭史
- ・鈴木 祥子
- ・南部 まり子
- ・小林 宏江
- ・富士 友紀子
- ・西川 絢子
- ・佐野 美帆
- ・佐野 美紀
- ・志田 澄美

### 公演情報

平成15年9月27日(土)開演18:30  
28日(日)開演14:00

会場 ロゼシアター中ホール  
入場料 一般:4,000円  
学生:2,000円

チケット発売日 ロゼ会員:7月26日(土)12:00～  
一般:7月27日(日)9:00～

チケット好評発売中

全席指定



## 中村真紀子 ヴァイオリンリサイタル

富士市出身で現在ウィーン国立音楽大学に留学している中村真紀子さんが、去る5月イタリアで行われた第10回アンブレア・ポストキニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで第3位入賞を遂げました。これを記念してロゼシアターでは中村さんのリサイタルを9月10日に急遽決定。ご本人も地元でのリサイタルをとても楽しみにしているとのこと。乞うご期待!



### 公演情報

平成15年9月10日(水) 入場料 一般:2,000円  
開演 19:00 学生:1,000円  
会場 ロゼシアター中ホール

チケット好評発売中

全席自由

## 立川流 前座さん大集合! ヤングふび寄席

～「なんてだろう」と思う質問を「ゲッツ!」＆公演で「リターン」～

質問を募集しております。

公演当日、ロビーで質問箱を用意しております。一人前になるために日々修行に励んでいる4人の若き落語家たち。落語をはじめ、前座修行で身につけた盛りなどを披露いたします。シリーズ3回同じメンバーなので進歩の過程がわかる...ここがみどころです。叱咤激励、アムとムチ、ここそこあそこチェックしてやってみて下さい。こんな彼らへの質問、なんでも結構です。募集しています。

例)名前はだれがつけるの? 本当のところ気に入ってますか? 毎日食べていけるお給料はもらっているの?

### 公演情報

1回目 2003年9月21日(日)  
2回目 12月7日(日)  
3回目 2004年2月8日(日)  
会場/13:30 開演/14:00  
会場/ロゼシアター小ホール  
入場料/均一1,000円 全席自由

★3公演セット券/2,700円



立川志らべ (蓮山町出身)  
立川らく八  
立川らく太  
立川らく坊 (立川らく太の弟)  
立川らく太が代わり出演致します

◇最近のNHK教育の子供向け番組を見たことがありますか?  
お笑い芸人や歌手、さらに元関取がその番組のキャラクターとなって、体操をしたり、歌を歌ったり、言葉の勉強をしたりして見られます。これが大人が見てもなかなか面白いんです。皆さんも一度見てみて下さい。  
おすすめはアルファシズマ行進  
企画広報係代表 T

◇九月に開催するミュージカル「HAND in HAND」のオーディションが終わり、市民CASTが決定しました。いよいよ本格始動というところです。そして、市民合唱「狂歌」の曲が決定しました。こちらは完全燃焼です。市民参加型の事業は努力と時間がかかりますが、公演が終了したときの参加者の笑顔と会場にお越し頂いたお客様の拍手に感謝無量となります。フルランを走り終ったときはこんな気分なのではないでしょうか?  
編集担当者

## ロゼ・チケット

表紙 佐野雅彦 (富士面の会代表)  
富士面の会は、横浜在住の能楽師・岩崎久人氏の元へ通っていた故斎藤孝蔵氏が平成元年七月に発足。現在も、岩崎氏の指導のもと、月三回のペースで吉原の南町公会堂で能面打ちを楽しんでいます。約四ヶ月かけて製作された能面は、毎年開催されるロゼシアター展示室での「富士面の会能面展」にて披露されています。



ロゼ・チケットセンター ☎0545-60-2500 富士市藤原町1750番地 9:00~19:00

- すみや富士中央店 ☎0545-60-4567
- 富士市民センター ☎0545-61-6262
- ラ・ホール富士 ☎0545-53-4300
- タナゴア楽堂富士支店 ☎0545-52-1586
- 谷島屋富士松岡店 ☎0545-60-1150
- カフェ書店 富士南商店 ☎0545-71-9592
- 富士宮・宮原店 ☎0544-24-7160
- マルサン書店沼津仲見店 ☎055-963-0350
- コーンサービスカウンター 吉原店 ☎0545-51-9027(代)
- コーンサービスカウンター ユーサンテラス富士宮店 ☎0544-24-6777(代)
- 吉原商店街紅い〜どホテル ☎0545-51-5227

ロゼシアターホームページアドレス <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/~rose/> e-mail rose@city.fuji.shizuoka.jp

みなさんとロゼを結びホットラインイベント情報・館内情報・トピックスなど盛りだくさんの内容です。

## エッセイ

ヨーロッパからの

# Air Mail

2003.6 vol.2 FROM EUROPE



### 本多まき (フォルテピアニスト)

桐朋学園大学短期大学部芸術科および研究科卒業。渡独、スイス・バーゼル国立音楽大学ピアノ専攻クラス在籍中にフォルテピアノに興味を持つ。その後、フォルテピアノをドイツ・フランクフルト国立音楽大学、パリ国立高等音楽院に学び、ともに最優秀の成績で卒業する。現在、同音楽院室内学科に在籍。これまでに、ピアノを牧野楓、稲田美代子、J.J.デュンキ、J.エブリ、故エディット・ピットーア・クセンフェルト氏等に師事。フォルテピアノをロバート・ヒル、パトリック・コーエン氏に師事。「93 MAYコンサート」出演。平成11年度、楽器の浪漫「バロック古楽器の世界展」ギャラリーコンサート出演。平成12年、平成14年、ロゼシアターにてフォルテピアノによるソロコンサートを行う。その他、室内楽、ソロをはじめ積極的に活動している。

春になり、街頭にスズランの花が並び始める。もうすぐ五月一日「労働者の日」がやって来ます。フランスではこの日は祝日。日本のものよりずっと小振りのスズランの花を飾ってお祝いします。この日のもう一つの大切なイベントは、労働組合のデモ行進。今年も年金制度をめぐり、労働組合が赤い旗を振り振り行進しました。それに伴い、地下鉄(メトロ)と国鉄、それにエアーフランス、郵便局などがストライキ。行政に対し、自分達の意見を主張するのは大変良いことだと感心する反面、バリの大切な交通機関であるメトロ等が一日または二日間もストップすると、思わずため息が出てしまいます。街は自動車であふれ、当然の大渋滞。自転車、ローラースケートが活躍する中、私などはイライラしたドライバーを横目にひたすら歩き続ける組...このように全線がストップするストライキは珍しいのですが、小規模なものは日常茶飯事。あまり度重なり「実は仕事したくないだけなんじゃないの?」と疑ってしまう。これもお国柄でしょうか...さてこのメトロ、第二号は一九〇〇年にフランスの技術者フルゲンズ・ピアンベニユの設計に基づき完成しました。特にセーヌ川の下に線路を通すため、当時最高の技術が駆使されました。セーヌ川の中洲にあるシテ駅とサン・ミッシェル駅は実際に川の底にあり、駅構内の鉄の壁は、今でも一〇〇年以上経ったオリジナルのものが使われています。

現在ではメトロは十四路線あり、それにRER(高速郊外地下鉄)の五路線が加わってパリジャンの生活に無くてはならないものとなっています。二十世紀に入り、ヨーロッパで通貨統合という大きな変化が起こりました。フランスでも二〇〇二年より正式にユーロが使われています。二〇〇一年より具体的な準備が始まり、商品やレストランメニューの価格がフランスとユーロの両方で記載されるようになりました。その際、それに便乗するように物価もずいぶん上がってしまいましたが。ユーロは6:55957フラン。このややこしい計算に慣れるため、特に年配の方を対象とした公開講座が開かれたり、フランスからすばやくユーロに換算できる電卓が登場したりしました。二月はどちらのお金でも支払うことができましたが、フランは徐々に姿を消し、ユーロが意外とスムーズに生活の中に溶け込んでいます。ところでこのユーロ。紙幣は各国同じデザインなのですが、コインの裏側はそれぞれ違うのです。ちなみにフランスは聖マリヤの像。私のお気に入りのレオナルド・ダヴィンチの描いた解剖図が描かれたイタリアのもので、さすがにおしゃれです。その際、それに便乗するように物価もずいぶん上がってしまいましたが。ユーロは6:55957フラン。このややこしい計算に慣れるため、特に年配の方を対象とした公開講座が開かれたり、フランスからすばやくユーロに換算できる電卓が登場したりしました。二月はどちらのお金でも支払うことができましたが、フランは徐々に姿を消し、ユーロが意外とスムーズに生活の中に溶け込んでいます。ところでこのユーロ。紙幣は各国同じデザインなのですが、コインの裏側はそれぞれ違うのです。ちなみにフランスは聖マリヤの像。私のお気に入りのレオナルド・ダヴィンチの描いた解剖図が描かれたイタリアのもので、さすがにおしゃれです。



このようにメトロには地上を走るものもある。

ヨーロッパで通貨統合という大きな変化が起こりました。フランスでも二〇〇二年より正式にユーロが使われています。二〇〇一年より具体的な準備が始まり、商品やレストランメニューの価格がフランスとユーロの両方で記載されるようになりました。その際、それに便乗するように物価もずいぶん上がってしまいましたが。ユーロは6:55957フラン。このややこしい計算に慣れるため、特に年配の方を対象とした公開講座が開かれたり、フランスからすばやくユーロに換算できる電卓が登場したりしました。二月はどちらのお金でも支払うことができましたが、フランは徐々に姿を消し、ユーロが意外とスムーズに生活の中に溶け込んでいます。ところでこのユーロ。紙幣は各国同じデザインなのですが、コインの裏側はそれぞれ違うのです。ちなみにフランスは聖マリヤの像。私のお気に入りのレオナルド・ダヴィンチの描いた解剖図が描かれたイタリアのもので、さすがにおしゃれです。



サン・ミッシェル駅構内。外はセーヌ川。

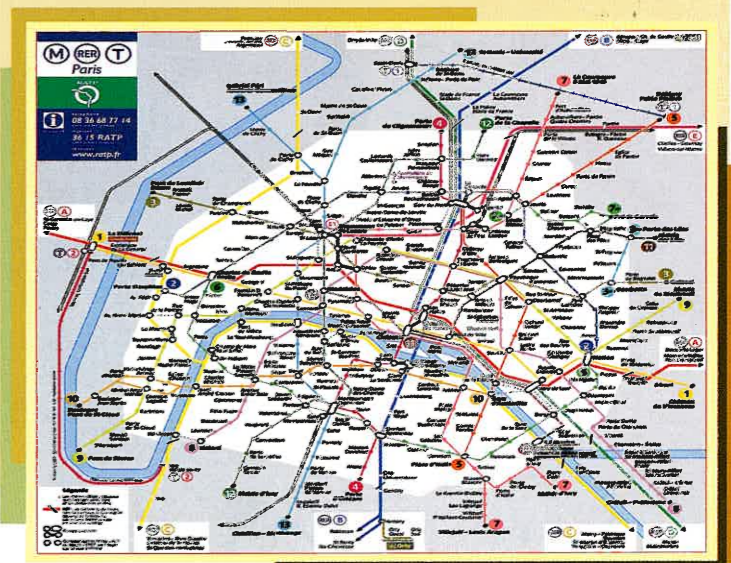


地下鉄入り口。当時一流の建築家ギマルの作



カールゼルの凱旋門。ナポレオンの勝利を記念して建てられた。

「ヨーロッパ通貨統合といえども、国のカラーはそのままだ」という自己主張がみられて、何ともヨーロッパらしいなあと感心しながら「このお金、レニから来たのかしら。」とおつりをもらおうたびにコインをめぐり楽しんでいきます。1563年造りのチュイルリー公園。向こう側のコンコルド広場にオペラスクがそびえ立つ。



パリの地下鉄の路線図